



<取材のお願い>

2023年1月24日

宮城県古川黎明中学校・高等学校

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

タイの高校生が宮城県で災害科学と農業技術を学ぶ

～日・タイの絆を深める高校生交流～

宮城県古川黎明中学校・高等学校では1月31日(火)～2月5日(日)、タイのプリンセスチュラポーン科学高等学校サトゥン校より高校生10名、教員3名、計13名を招き、科学技術体験プログラムを行います。プリンセスチュラポーン科学高等学校はタイに12校ある科学教育に重点を置いた王立の中高一貫教育校で、全国から優秀な人材が集まり、将来タイを支える研究者や技術者、医師などを多く輩出しています。今回来日するのは、本プログラムへの参加希望者から選抜された、特に意欲と学習成績が優秀な生徒たちです。招へい学生らは滞在期間中、本校生徒の家庭にホームステイする予定です。

日本とタイは、「自然災害のリスク」という課題と常に向き合う必要がある国です。2004年のスマトラ沖地震では、タイに甚大な津波による被害がもたらされました。本プログラムでは、招へい学生たちが本校の生徒たちとともに、宮城県の①災害科学、②科学技術、③農業技術について学びます。

- ① 東日本大震災の被災地である宮城県沿岸部訪問、東北大学災害科学国際研究所での「災害科学」に関する講義とワークショップ
- ② 理化学研究所 仙台 を訪問して見学と講義
- ③ 世界農業遺産「大崎耕土」に関する講義とフィールドワーク

また、本校の英語・数学・理科の授業に参加するほか、科学分野での共同研究を実施し、最終日前日には「黎明サイエンスフェスティバル」にて、本校生徒とともに英語による研究発表を行います。プログラム全体をとおしてお互いの理解を深め、継続した研究交流につながることを目的です。

今回の交流プログラムは科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」に採択されたものです。

* 「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費をJSTが支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>





つきましてはご多忙中とは存じますが、招へい学生と本校生徒が訪問先で課題に取り組む様子、ディスカッションをする様子、黎明サイエンスフェスティバルの様子などを取材して頂きたいお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の久光重宏主幹教諭へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

【実施内容】

- 仙台市の震災遺構、被災地の復興現場見学
- 東北大学災害科学国際研究所見学
- 理化学研究所 仙台 見学
- 世界農業遺産「大崎耕土」に関する講義・フィールドワーク
- 古川黎明高校 英語・数学・理科の授業体験
- 古川黎明高校生徒との共同研究・意見交換会
- 古川黎明サイエンスフェスティバルでの研究発表

【研修日程予定概要】

- 1月31日(火) 午前:入国、宮城県へ移動
午後:理化学研究所 仙台 見学と講義
- 2月1日(水) 午前:東北大学災害科学研究所見学 講義・留学生との交流
午後:仙台市の震災遺構、被災地の復興現場見学 講義
- 2月2日(木) 午前:世界農業遺産「大崎耕土」に関する講義
午後:世界農業遺産「大崎耕土」に関するフィールドワーク
- 2月3日(金) 午前:英語・数学・理科の授業体験
午後:共同研究・意見交換会
- 2月4日(土) 午前:黎明サイエンスフェスティバルでの研究発表
午後:黎明サイエンスフェスティバルでの研究発表、東京へ移動
- 2月5日(日) 午前:日本科学未来館見学
午後:帰国

■本件に関するお問い合わせ先

宮城県古川黎明中学校・高等学校

担当: 久光重宏 (主幹教諭・SSH 担当)・阿部真弓 (教諭・英語科)

■国際青少年サイエンス交流事業 (さくらサイエンスプログラム) に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

(担当: 田中(禎)、太田)